

## 平成28年度「学校の森」取り組み内容アンケート回答用紙

学校名

東京都多摩市立連光寺小学校（都道府県より記載ください）

### 1、御校の取り組みについて（該当する番号に○：複数回答可）

- 1) 全校の教育方針である ESD の重要な要素と位置づけている
- 2) 全校の教育方針である環境学習の重要な要素と位置づけている
- 3) 自校の特色ある学習と位置づけている
- 4) 総合的な学習の時間に相応しいテーマと位置づけている
- 5) 子ども達の自然体験機会が減少する中で貴重な体験学習と位置づけている
- 6) 地域に開かれた学校を目指す一環の授業と位置づけている
- 7) 様々な震災を受けて防災・減災を学ぶ授業と位置づけている
- 8) 屋外での授業に学習効果が見られることに着目して取り組んでいる
- 9) 特別活動（児童会・生徒会等）として取り組んでいる。
- 10) その他（ ）

### 2、森を活用する視点について（該当する番号に○：複数回答可）

- 1) 気付き、驚き、不思議等の自然に対する豊かな感性を養うことができる  
具体的には、
  - ① 自然の中で伸び伸びと過ごすことで養われる感性
  - ② 森の多様性を前に生態系の繋がりを理解する感性
  - ③ 人の暮らしが自然と繋がっていることに思いを馳せる感性
- 2) 森の中で答えのない課題に取り組むことで教育的効果が高まる  
具体的には、以下のようなコミュニケーション力が養われる
  - ① 主体的な行動、探究心、自分の考えを発表する力を誘発できる
  - ② 教室では消極的な子どもが積極的に行動できる
  - ③ 子ども同士で助け合い、皆で成長しようという行動を誘発できる
- 3) 森での体験を通じて学んだことはエピソード記憶として長期記憶に繋がる
- 4) 森では子ども達の集中力が高まり、学習を進めやすい
- 5) 先生以外の地域の人等が学習に参加することで子ども達の視野が広がる
- 6) 森という地域資源を学ぶことで地域を知り、更に地域を誇りに思うことで、そこに住む自分自身の有用感が高まる
- 7) その他（ ）

3、学校の森の活動を行っている対象学年、年間時間数、授業科目等について

(下記の表の該当する欄に年間時間数を記入)

科目等	1年	2年	3年	4年	5年	6年	中1	中2	中3
国語	5	5	5	5	5	5			
社会	/	/			5				
算数・数学									
理科	/	/	3	3	3	5			
生活	10	10	/	/	/	/	/	/	/
音楽									
図画工作・美術	5	5	5						
(技術・)家庭	/	/	/	/					
(保健)体育									
道徳	2	2	2	2	2	2			
外国語(活動)	/	/	/	/					
総合的な学習	/	/		4	70	1			
特別活動									
その他									

特別活動で行っている場合の補足説明

( )

4、活動場所の状況について(該当する番号に○:広さはおおよそで結構です)

- 1) 校庭の植栽木等のスペース(広さ ha)を活用
- 2) 近隣の公園の植栽木等のスペース(広さ ha)を活用
- 3) 学校の敷地内/隣接地にある森(広さ 5.1 ha)を活用
- 4) 学校から徒歩30分圏内にある森(広さ ha)を活用
- 5) 学校から徒歩30分超圏にある森(広さ ha)を活用

5、学校の森の活動開始時期について(下線部に記入)

西暦 2000年 から(内、中断 西暦 年 から 年 まで)

(中断の理由: )

6、指導者について（該当する番号に○）

- 1) 先生が主体
  - 2) 森林管理署、NPO、PTA等の先生以外が主体
  - 3) 先生と森林管理署、NPO、PTA等の先生以外の協同態勢
  - 4) その他（ ）
- 上記2) または3) に該当する場合の森林管理署、NPO等の学外団体の具体名  
(**森林総合研究所多摩森林科学園** 都立桜ヶ丘公園管理事務所 地域の方々)

7、PTAの関わりについて（該当する番号に○：複数回答可）

- 1) 安全な活動を行う為の森の整備についてボランティア協力
- 2) 森の活動時の見守りに関してボランティア協力
- 3) 森の整備や備品の購入等の活動経費の支援協力
- 4) 特段の支援はない
- 5) その他（ ）

8、地域の協力の有無と内容について（該当する番号に○：複数回答可）

- 1) 地域の協力  
 ① 有り    ② 無し
- 2) 「有り」の場合の協力先の属性  
 ① 森林管理署    ② 森林組合    ③ 自治体     ④ NPO等活動団体  
 ⑤ 地域住民    ⑥ その他（ ）
- 2) 「有り」の場合の協力の内容  
 ① 安全な活動を行う為の森の整備についてのボランティア協力  
 ② 森づくりの専門的な領域等に関する指導の場面での協力  
③ ノコギリ、鎌等の貸出し、木工の材料等の提供等での協力  
④ その他（ ）

9、校長先生の関わりについて（該当する番号に○：複数回答可）

- 1) 積極的に推進役を果たしている
- 2) 対外調整業務についてリーダーシップを発揮している
- 3) 学校の森を担当する先生の意向を尊重して、ある程度任せている
- 4) その他（ ）

10、教育委員会の関わりについて（該当する番号に○：複数回答可）

- 1) 教育委員会として積極的に支援
- 2) 教育委員会としてはニュートラル

11、学校の森に必要な経費の有無と程度（該当する番号に○）

- 1)  なし 今年までは森林総研の研究として実施しており、学校の費用負担無し
- 2)  あり ☞ 以下の該当する年間経費に○
- ① 1万円未満 ② 1万円以上 ③ 3万円以上 ④ 5万円以上
- ⑥ 10万円以上（具体的には、  
万円）

12、経費の支出先について（該当する番号に○：複数回答可）

- 1) 指導者謝礼
- 2) 歩道刈り払い等の毎年発生する森林整備の外注費用
- 3) 児童／生徒の森までの往復交通費
- 4) 道具の購入、樹名板等の林内設置物等の一時経費
- 5) その他（  
）

13、12の費用の捻出について（該当する番号に○：複数回答可）

- 1) 学校運営費で賄う
- 2) 参加費として児童の家庭から集金
- 3) P T Aの寄付
- 4) 市町村の予算（教育委員会、教育委員会以外の森林整備セクション等）
- 5) その他（  
）

14、数年に一度の大規模な森林整備費用の有無と対処法（該当する番号に○）

- 1) 発生しない（  
）
- 2) 発生する
- ① その場合の整備の内容（  
）
- ② 必要金額（  
万円）
- ③ その資金の捻出先（  
）

15、学校の森の平成28年度の活動と前年度の活動比較（該当する番号に○）

- 1) 前年度より進化  
具体的には（  
）
- 2) 前年度より後退  
具体的には（  
）
- 3)  前年度と変わらない
- 4) 平成28年度から開始
- 5) 前年度のことは判らない
- 6) その他（  
）

16、活動で困っていることについて（該当する番号に○：複数回答可）

- 1) なし
- 2) フィールドが遠い
- 3) フィールドが整備されていない
- 4) 登る際の傾斜が急である
- 5) 指導者の協力が継続できるかどうか不透明
- 6) 森の整備の担い手がいなくなって活動の継続が不透明
- 7) 運営上の経費負担が大きく予算を継続できるか不透明
- 8) 安全管理面から活動内容が制約されること
- 9) 所有者との関係で森の使用が出来なくなる恐れがある
- 10) 教室内での授業時間増加の要請／学力低下
- 11) その他（ )

17、自由記入欄

学校と隣接している多摩森林科学園の実験林5. 1 ha が活動の中心で 2006 年から同園の森林環境教育の研究テーマとなり、学校の活動も毎年進化し、多くの専門家のネットワークも活用できている。しかし、この態勢もいつまでも続くわけではないので、実験林に隣接する大谷戸公園の棚田、桜ヶ丘公園の雑木林等も地域の支援で活動フィールドとして活用する等、新たな教育テーマも取り込みながら、実験林中心の活動をより幅広いものにする転換期を迎えている。学校と社外を繋ぐ授業のコーディネーターが10年以上環境教育中心に取り組んで大きな成果を上げている。

学校経営方針など文書化されたものが提出可能であればコピーを同封して下さい。

以上アンケートに回答頂き、ありがとうございました。